

A病院における看護研究の動向

古瀬 智子¹⁾ 都竹 智香子²⁾ 黒川 藍²⁾ 他

1) 高山赤十字病院 2病棟4階

2) 高山赤十字病院 看護部

A病院では、継続教育の一環として看護職の育成と看護の質向上を目指し看護研究活動を行っている。看護研究発表会を1999年に看護学会として立ち上げを行い、看護研究活動の充実に向けて取り組みを積極的に行ってきた。今回これまでの看護研究活動の歩みを看護職全体で共有し、看護研究活動の発展の一助となることを期待し、過去15年間の当院の看護研究の動向を明らかにした。その結果から研究指導・支援者、研究者それぞれの立場の課題を得ることができたため報告する。

【研究方法】

独自に作成した分析フォームを活用し、対象論文をデータ化した。また、研究内容の分類は、研究テーマをデータとし、意味内容の類似性に基づき分類した。

【結果】

1999年から2013年までに発表された論文は195件であった。研究の種類としては量的研究131件(67.2%)、質的研究44件(22.6%)、併用20件(10.3%)であった。研究内容別にみると「看護支援内容の充実とその評価」109件「患者及び施設利用者・家族の理解を深める現状調査」23件「ケアの提供者地震の理解を深める現状調査」24件「システム・ツールの改善とその評価」29件「安全管理・感染防御の視点の取り組み」10件であった。

【考察】

研究指導・支援者は研究者が研究対象を丁寧にとらえることに適したデータ収集方法の選定が行われるよう支援することが示唆された。また研究者が研究の歴史を知ることも研究テーマの選定に役立つものと導き出された。

急増する外国人旅行者の入院時対応の取り組み ～医療費の支払方法について～

荒川 幸雄¹⁾ 竹中 勝信²⁾ 大坪 明日香¹⁾

清水 保貴³⁾ 登林 正規⁴⁾

1) 高山赤十字病院 医事課

2) 高山赤十字病院 脳神経外科

3) 高山赤十字病院 総務課

4) 高山赤十字病院 企画調整課

【はじめに】近年外国人旅行者の増加に伴い受診者数も増加している。当院では、平成27年度より外国人に対応するプロジェクトチームを立ち上げ、体制整備を図るよう準備を進めている。その一つに外国人旅行者の診療報酬をこれまでの10割負担から20割負担の自由診療へと変更した。このため入院時には高額な負担となり、未収リスク軽減のため、確実に料金を徴収する対応が求められた。そこで入院時の対応手順を作成して備えることとした。

なお、ここでいう外国人の定義は「日本国籍を有さず、日本国内で有効な公的健康保険を有しない者」をいう。

【方法】過去の経験から得た知識を基にして、運用手順を作成した。留意点も加え、当該患者が加入する保険会社との直接請求の方法についてフローチャート化して、医事課職員の誰もが対応できるよう見える化を図った。特にパスポートとクレジットカードのコピーの保管は徹底した。

【結果】運用手順に則して対応にあたった次の2例を経験した。当該患者が加入する保険会社との直接請求の取引を行った事例について ①日本代理店を介して取引した事例 ②現地保険会社との直接取引した事例

【まとめ】いづれの事例も欧米の世界的な大手保険会社との取引であったこともあり、作成した運用手順に沿って対応ができた。但し、現地保険会社との直接取引の場合は、電子メールでのやりとりが主であり言語を含めて商慣習の違いに苦慮した。今後備えるべき課題を含めて考察する。

キーワード 外国人診療、入院、医療費、未収金